

## 4-1-5-9 神経内科

### 1. 診療内容

#### 1.1 対象とする疾患

神経内科は、脳性麻痺・てんかん・知的障害・発達障害・神経変性疾患・先天性代謝異常症・筋疾患・末梢神経障害などの神経系疾患の一般診療と共に、小児救急疾患である急性脳炎・脳症、髄膜炎なども、救急診療部・集中治療部と協力して診療に従事した。

平成 17 年度内に新規に診断し治療した代表的な疾患としては、先天代謝異常症としては、有機酸代謝異常症（メチルマロン酸血症など）や GluT1 欠損症など、感染症としては、ADEM を含めた Post-Infectious Encephalopathy、免疫疾患としてはギラン・バレー症候群が今年度は多く、また例年とおりの筋無力症（眼筋型）の新規発症も診療した。神経筋疾患としては、先天性ミオパチー（Centronuclear Myopathy 1 例）、筋ジストロフィー、遺伝性感覚運動ニューロパチー（Charcot-Marie-Tooth 病）などがあげられる。てんかんでは、脳神経外科と協力して外科的な治療のための診断検査などを行った。

#### 1.2 検査・治療の概要

診断に必要な検査として、頭部画像検査（核磁気共鳴画像、CT スキャン）、脳血流シンチグラム、神経電気生理検査（脳波、誘発電位、末梢神経伝導速度）などを、外来または入院にて施行した。また、筋ジストロフィーなどの筋疾患などについては筋生検を施行し、遺伝性神経疾患については遺伝診療科の協力の下で遺伝子検査にて診断を行った。

### 2. そのほかの院内外の活動

**2.1 院内活動** おもちゃライブラリーは、神経内科に受診している発達障害の幼児のサポートを目的として盛んに活動をしており、その活動の一環として平成 18 年 3 月 25 日に当センター講堂にて公開セミナー「病児の遊びとおもちゃケア」を開催した。これはおもちゃライブラリー活動を日ごろ支えている NPO 法人日本グッドトイ委員会と NPO 法人難病こども支援ネットワークの共催で開いたもので、講堂にほぼ満員となる参加者が当日は集まり、小児医療におけるおもちゃ・遊びに関する関心の高さを反映したものとなった。前神経内科医長の二瓶健次先生の基調講演に続き、当院保育士の高橋みゆき氏、臨床心理士の白川公子先生、名古屋での活動について小竹陽子氏より報告をしていただいた。また「病児の遊びとおもちゃの役割」をテーマとしてパネルディスカッションを行ない、今後の活動の視点などについて話し合った。それに引き続き午後は、ワークショップとして、おもちゃコンサルタントによる実演が行われ、手作りのおもちゃや外国のおもちゃ遊びなどが紹介された。（この模様は後日 NHK にて、病院の場で障害のある子どもにおもちゃを使った働きかけとして紹介された。）